
ワンピースに・・・転生してしまった

りょう

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ワンピースに・・・転生してしまった

【Zコード】

Z4089M

【作者名】

りょう

【あらすじ】

普通の何処にでも居る高校生、本田美和16歳・・・
いつも通りに過ごし、家で寝ていたはずだった・・・
神のせいで転生、しかもルフィーの妹？！
しかも、何故か美少女になっているし〇rz・・・
妄想大好き、でも文系苦手な私が書いたので、下手糞なので・・・
ごめんなさい。

1話 神との出会い（前書き）

ワンピースモノ大好きで、でも少ないので自分で書いたら
へつて

1話 神との出会い

「「「は何処だ？？」

私は、本田美和（16歳）家で普通に寝たハズ・・・・夢？？で
も感覚があるから、現実？

「しかし、見渡す限り真っ白・・・」

「これからどうしようつ・・・」

？？？「オイーそこ」の女ー」

？？？？アレへへむきあまで誰も居なかつたのに・・・？？

「あなたは、誰ですか？」

？？？「俺はゼウスだ！」

・・・・・・ゼウス？？？

「ゼウス～～～～？」

ゼウス「そうだ！」

・・・・それって！

「神のゼウス？？？」

ゼウス「そうだ。」

「何で居るの？ヤツパリ……夢？？」

だって、有り得ないでしょ！……だって！神だよー、ゴットだよー！

ゼウス「残念ながら、現実だ……そして、お前は死んでしまった……」

・・・・死んだ？・・・・

「嘘でしょ？？」

ゼウス「残念ながらホントだ。」

「何で死んだの？私家で寝てたよ。」

ゼウス「我々のせいだ。すまぬが転生システムのヒラーのせいでお前の人生がリセットされてしまったのだ。そのためお前は死んでしまい、ココに来たのだ……」

「…………じゃあ生き返られないの？」

ゼウス「すまぬ。しかも今の世界の理に外れてしまった為に、転生できないのだ……」

・・・・・・・・

「じゃあ・・・私どうなるの？」

ゼウス「他の世界で転生してもいい。我々の責任なので色々願いを
うまでなら叶えてやれるが・・・どうする？」

「どうせ、あそこには誰でも平凡に終わっていたらいいし・・・
どの世界に生まれても、平凡に過ぎじて終わるだけだらうな〜〜。

「じゃあ。転生させてください。」

ゼウス「やうか。では、願いはどうある？」

「どうせ、やる気ないし・・・

「ねむねます。」

ゼウス「・・・本当にここのか？」

「?/?/?/?/いいですよ。」

ゼウス「じゃあ、転生させよ。」

光があふれ出して、私の意識は無くなつた・・・

・でも、この選択が間違いだった・・・Orz

ゼウス「変わった人間だったな・・・」

ゼウスは何千年も生きてきて何回かこのような事をしたが・・・
願いを任せられたのは初めてだった。

ゼウス「・・・よし！アイツ氣に入った！」

そう、ゼウスのせいでとんでもない容姿と、とんでもない世界に転生させられてしまふのだった・・・

ゼウス「よし！まずは転生先は・・・ワンピース・・・容姿は・・・絶世の美女・・・あ！ルフィの妹にしてやろう・・・後は、細胞の再生能力最強・・・魔力も霸氣・・・最強で霸氣は七色で・・・不老にしてやろう・・・あつ！悪魔の実食べても泳げるようにして、何個だべても大丈夫にして・・・よし完成！」

こうして美和の平凡人生は終わるのであつた・・・

2話
何故この世界????私の平凡は????（泣）

• • • • •

何処だろう」
・
・
・
・

「おひ～～あふあふ（甘い）」

• • • ! ! ! • • • • • • • • • •

＝＝＝＝モンキー・D・ガープ 視点＝＝＝＝

今日ワシは、孫の誕生に立ち会つて居る。

「次こそは、女の子がいいの~~~~・・・・

もうウンザリじゃー息子もエースもルフィーもワシに冷たい・・・・
女の子なら、ワシの味方になってくれるはずじゃ！

一時間後

オンギヤ――――――――――――――

念願の女の子が生まれた。
ワシが大事に育てよう

|| || || ||

美和視点

私が生まれて1時間たつた頃。

部屋におじいさんが入ってきた。

おじこれん「おひー田を覚ましたか、爺ちやんですか～～～」

この容姿……………このしゃべり方

!)

カープ「そうか、うれしいか」

何故この世界……………。（泣）

アレから2年たつた……

爺ちゃんの子育ては間違っている……

なぜかつて……それは……

1歳ルフィとエースと3人で風船にくくつけられ飛ばされた……
ルフィまだ3歳だよ！

2歳みんなで密林に放置……半年後、山賊に預けられる。

ありえないでしょ？……？

「お兄ちゃんさ……」「…………」

エース「無人島……」

ルフィ「こつもの事だろ~」「

・・・〇・・・・

「取り合はず、食料探そつ?」

下から見上げていった。

兄ちゃんズ「／＼／＼／＼そつ……そつだなー!!」
「コーザ、果物
でも探しててくれ。」

「うん」「

兄ちゃん達・・・なんで顔真っ赤なんだる?私の顔変な顔なのか
な??

そういえば・・・まだ自分の顔なんか気にしたことなかつたな〜。
・・・

後で見てみよう。

――――泉――――

・・・・・何この顔。

な、な、何で美少女になつてるの?・・・

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

・・・・・ O r n • • • (泣)
めじめ、めつスの仕業？？

アレから、木の実や果物を見つけ、お兄ちゃん達の所に帰ってきた
(^*^)

「エース兄、捕つてきたよ～」

エース「おう。ミコーは良い子だな～」

ナデナデ

「えへっ

エース兄のナデナデはいいな～

「ルフィ兄は、何捕つたの？」

ルフィ「俺か？俺はな～～～～～～～～～～

ルフィの採ったのはデカイ、トカゲだった……（泣）

エース「じゃあ、取り合えずだべるか！」

「うん」。

ルフィ「オウ！」

モグモグ・・・・もぐもぐ・・・・

? ? ? ? ? 何か果物・・・不味い・・・

でも、口口では貴重だし・・・我慢・我慢・・・

エース「……おこー!!こーお前……その模様は……悪魔の
実だぞー」

「そつ！そつ！そんな~~~~~！」

・・・・・もつ終わった・・・・・これからどうしようか。Orz

・・・・・

何でこんな事になってしまったんだろ？。。。

ビリも・・・悪魔の実を2つも食べてしまつたらじこ・・・

・・・それを・・爺ちゃんが隠れてつけていた兵士に見つかり〇

・・・

私は海軍本部に運ばれた・・・

ガープ「それで…!!」
「の身体はビリなのじゃーまつ・・・まさか！
死んでしまうんじゃないだらうなー！」

爺ちゃんは軍医の胸座をつかみ、すごい力で揺すつて居る・・・
ちゃんその人死んじやうよ・・・（泣）

つる「やめるのだ！ガープ。」

センゴク「そうだぞ！そんなにしては、話せるものも話せないぞ…」

ヤツパリ、おつる中尉とセンゴク元帥は話が分かる人だ。

爺ちゃんと大違い！

軍医「ほほほほほほ！…・・・今の時点では何とも言えませんが。普通は、悪魔の実を一つ田を食べてすぐに拒否反応が出て死ぬのですが…・・・ミリー様は、拒否反応がなかつた事を考えると、命は丈夫です。」

ガープ「そつか・・・・無事なのじゃなーよかつたぞ〜〜〜

つる「しかしなぜ、2つ食べて無事なのか・・・」

センゴク「おー・!!」リーは、他の悪魔の実を食べても平気なのか?」

軍医「可能性としては、有り得ることだと思います。」

軍医「それと、ミリー様の食べた二つの実は、悪魔の実図鑑には載つてないものだと判明しました。・・・未知の力であります。」

センゴク「何じやと!」

つる「未知の力か・・・」

ガーブ「さすがワシの孫だ! ははははっ!」

爺ちゃんが何か言つてる・・・が無視しちゃう。

もしかして、ゼウスが何かしたのかな?

の人ならありえる・・・

セツ「ク「しかしれからいわぬか?」/「コーを狙つモノが増えよ
う。それにこの密密だしな……」

？？？？？ この容姿 ？？・・・

あつ！ そだつた・・・ 容姿がとんでもない事になつてたんだつ
た・・・ O r z

ガープ「大丈夫じゃー!」ワードーは、海軍に入りワシとずっと居るのじ
や!」

「爺ちゃん。それ決定なの？」

カープ「当たり前じゃ！」

センゴク「その方が、安全で良いじゃね?。しかし・・・」
活せるか・・・」

カープ「わしの「なし（じや）だな」

「ひまじでこだまのコツのうるさい」

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

いつして、海軍入りが決まってしまったのである……（泣）

6話（前書き）

何か面白い能力とか思いつかないのでですが・・・

誰かアイディアアグだわい。

これがひ、おつねれんのといじで生活をする事になつたんだけど。。。

「おつむれん・・・何でこんな事になつてゐるの?」

そつ、おつるさんだけではなく海軍の集まりに、何故か連れてこられた

しかも、すゞく見られているのわ・・・ 気のせいかな・・・・ (泣)

「ガープ、貴様らへへへ！ワシの孫を変な目で見るな～～～～～～

「「「「「ガープ中将の孫お~~~~~!..」「「「「」

海軍1「ありえない・・・」

海軍2「生命の神秘・・・」

海軍3「可愛い・・・」

海軍4「ガーブ中将の孫か・・・でも・・・」

みんなの言つたこと分かるよーだって似てないもん。

でも、最後のは聞かなかつた事にしよう・・・うん・・・怖いし。

おつる「別け合つてこれから、私のとじで生活するモンキー・D・ミニーだ。聞いてのとじ・・・」

ガーブの孫だ。

「……………」

・・・・・・・・・・・・・・

……………怖い……………

カーパ「ミコーに手だすなよー。わしの大事な孫なんじゃぞー。」

爺ちゃん…………たまこは、良いことづ……（感ゲキ）（涙）

おつる「ミコーは、悪魔の実の能力者なのじゃが、ミコーの食べた
実は未知のみなのじゃ…………
世界の凶惡な者達に目を付けられると大変な事になる。それにこの
姿姿じや。皆、もし何かあつたらミコーを守つてやってくれ……。

」

セハ「おつるの話うとうつだ。とへて、上のモヘモヘ頬
むよ。」

7話 番外編・・・Hースの決意

俺の義妹は、ありえないぐらい可愛い・・・

生まれて爺に、連れてこられた時からHリーを守るつとルフィと心に誓つた・・・・

爺に、連れられ密林に放置された時に、気を付けてやるべきだったのだ・・・・

俺らが守ると心に誓つたはずなのに・・・・悔しい。

ルフィ「Hース・・・ミニー帰つてこないな〜。」

「検査が長引いてるんだ・・・仕方がないだろ。」

それから数日後・・・・・じじいが帰ってきた。

「おーーー爺ーーミリーは一緒にやあないのかよー。」

ガーブ「ミリーは、無事じや。ただ・・・当分の間、海軍本部で暮らすがなー。」

海軍で暮らす?・・・・な、なんで・・・・

ルフィ「何でミリーは、俺達の家族だぞー。何で海軍で住むんだよー。」

ガーブ「あの子は、悪魔の実を2つも食べて生き残った初めての例なんだ!それに、ミリーの

食べた実は、図鑑にも載ってないような実でな・・・もし、それを利用しようとする者が現れて

みろ、ミリーはひとたまりもないぞー。それにあの容姿だしな・・・

「

エース「じゃあ、俺とルフィイが守る。」

ルフィイ「わうだよー、俺とエースだから、ここに帰つてくれば良い。」

ガーブ「馬鹿も～～ん…お前らは、まだ弱いではないか…じつせつヒローを守ると誓つんだ。」

ガーブ「守りたいと言つない、強くなつてから言えー。」

エース「…」

ルフィイ「…」

悔しい…。爺の言ひつけだ。今の俺、じつめのヒローを守つてしまつた。

れ
な
い
・
・
・
・
・

エース「強くなつて、ミリーを迎えて行つてやる・・・」

ルフィ「おれもだ！！」

爺「では——海軍に」「入らね——よ——」・・・・(泣)

8話 パンダの気分・・・Orz

アレから海兵達は持ち場に戻り、大将 中将 だけがのこつた。

センゴク「お前らに、残つてもうつたのには訳がある。」

黄猿「訳もなければ、呼はないでしょ、うー。」

青キジ「ニニニニ・・・・・・」

赤犬「その娘の覇氣色のことか？」

クサンさん・・・ビニでも寝れるのはホントだつたんだ・・・・

この調子だときつと、原作道理・・・仕事から逃げてるんだろうな
」。

センゴク「それもあるが他にもある。」

霸氣？？？霸氣つて、ハンコックとかが使ってたやつよね？？？

私に霸氣があるの？？？まさか！　Orz

もう驚かないよ　びづか、アイツのせいだ？？？

センゴク「実は、この子は悪魔の実を2つも食べてしまったのだが、何故か無事なのだ？？」

黄猿「！！　それは、おかしいですな？？？2つ食べれば死ぬはずなのだが？？」

おつる「もしかしたらなのだが、この子は悪魔の実を幾つ食べても大丈夫な可能性も有ってな

それに、霸氣の色も本来ならありえない色、それにこの容姿じゃ・
・ミリーを狙うやから

が出てこよつ。海軍に居た方が安全じゃ、この子の悪魔の実の事

もわかるから、その方がいいじゃろ。」

モモンガ「この子の悪魔の実は、どの様な能力なのでですか？」

センゴク「それが分からぬのじゃ・・・」

おつる「ただ、分かっている事は、2つとも図鑑にも載っていない未知の物じや。それにまだ3歳だ・・・

自分でまだ守る事が出来ぬからな・・・」

赤犬「だから、我々ですか？」

センゴク「そうじや。」

おつる「本来ならガープガ守れば良いのだが・・・いやつの教育方がおかしくての〜

ある時は密林に放置、またある時は風船にくくくり付け飛ばしたり・・・まあ、といふえず

「…なんじゅあひへあひむ

ホントおかしいよね・・・・ありえないよ・・・・

なんか、みんなが同情の目で見てる・・・

? ? ? 大将のみんながなでてくれる。優しい顔で見てくれる・・・

怖いと思つてた、サカズキさんまで微笑んでる。

そして、爺ちゃんはみんなに怒られてる・・・ザマーリロー

センゴク「・・・と言ひわけなので、取つ合はずはおつるが面倒見るが、他の者も頼むぞ」

いひじて、私の海軍での生活が始まった・・・

あれから私の□□での生活が始まった。

そう始まつたはいいが・・・・

「おつるさん・・・・みんなちゃんと仕事してるの?」

やつ・・・私を見にみんなくるのだ・・・

おつる「仕事はしているが・・・まあ、なんと書つか□□には女
がほとんど居ないからな・・・」

・・・確かに少ない・・・100～200人中1人の割合しか居ない・・・

おつる「それに出会いもないからな。」

出会いって・・・

「おつるさん私まだ3歳だよ・・・」

おつる「まあ・・・まだ3才だが、ミニー・・・お前は少し自分の容姿に自覚を持つべきだ。」

「？？？」

おつる「今はまだ3歳かもしれないが、お前のその容姿はありえないぐらいたましい・・・

もし天竜人にでも田に止まれば・・・」

天竜人か・・・あいつら嫌い・・・

「じゃあー強くなつて、自分で何とかしなきゃね」

おつね「…………」

- おつねは思った・・・この子は自分のことをわかつてないことを・・・

みんな・・・お前が可愛いから自分が守ってやりたいと考えている奴ばかりなのに・・・

本人は分かつてない・・・それにお前が大きくなったら求婚しようと考えている者が多いと

「嘘の」・・・

- ・・・//コー ょ・・・むつすでにフマ ンクラブ（親衛隊）なる者まで出来てるや・・・
- ほとんどの女男間わず入つてみると嘘のにそれも気づかないか・・・

「おつるせん、どこかで修行したいんだけど。どこかない？」

「なつー。まだ早い。おまけに元気ね。」

ウルウル

「おねがい・・・」

「… 分かった。用意しておいた」

「やつた～～～一泊二日なんだ～～～い好き～～

この後この発言を聞いた者たちによつて、おつるは愚痴られ、ガープにも散々言われるのだった・・・

10話 ガープ タジタジ は 駄目駄目爺ちゃん

おつねさんには、頼んで（泣き落とし）修行する場所を提供してもらつたけど・・・

「何でこんなに人が居るの・・・？」

人にばれないように「口まで来たのに・・・無駄？・・・（泣）
それに、爺ちゃんまで居るし・・・一体いつ仕事してるんだ？？？

・・・爺ちゃんの事だ・・・部下に押し付けたが、脱走してきたな・
・・・

ガープ「おひ。//コ一會こたかつたぞ〜〜。」

「爺ちゃん何してゐの？仕事は？」

ガープ「うん？//コーが修行すると聞いてなー！」

「だ！ か！ らー 仕事はー！」

ガープ「…………それはだな…………えへへへと」

ヤツパリ、脱走か……

「いつも、部下の人達に迷惑かけたら駄目って言つてゐるでしょう…

爺ちゃんのせいでのみんな

大変なんだよ。良い大人がいい加減にしなさい…」

ガープ「しかしだな……爺ちゃんはお前たちが心配で」「問答無用!!これ以上お仕事ちゃんとしないなら、嫌い

になるからね!」

ガープ「つな! 爺ちゃんを嫌いになるなんて言わないでくれーー
(泣)」

「もう!知らない。」

ガープ「そんなんーーー!」しくしく……イジイジ

おつる「ガープにそこまで言えるとわ。さすがだなーー。」

「おつ・おつむれこ」

ガーブ「何で・・・何でなんだー、おつむれこ、そんなに可愛い笑顔を向けて! ワシには?」

無視・・・

おつむれ「お前が、部下に仕事を押し付け脱走なんかするからだろー!」

そつそつ。おつむれもつと黙りつて!

ガーブ「だつて・・・ワシの知らないところが成長してるのがイヤなんだもん・・・」

・・イジイジ・・・イジイジ・・・

おつむれ「・・・はあ = 3」

おつる「お前がキッチンと仕事をしてきたり、//マーはもつとお前が好きになるとと思つや。」

ガーブ「！！ ホツ！ ホントか？」

なぜ口で私に振るの・・・

仕方がないな。

「うん。ちゃんと自分の仕事をさせて、公私混同しない人
するな〜」

尊敬

ガーブ「じゃあ、明日からきちんとするから。嫌いにならんで
くれ！」

「うん。嫌いにならないよ〜」

ガーブ「わつ 分かった。」

この話を 聞いた者たちによつて、みんなに知れ渡り・・・

海軍の仕事やいろんな面で効率が上がつたことは、//コーンはしな
い。

この事を知つたセン「クとおつむよつて、//コーンで色々頼むと効
率が上るとガープや今まで

仕事をサボつていた者達の、部下に伝えた//コーンでみんな頼んで
くるよつになつた・・・

1-1話 (前書き)

やつとい、悪魔の実について書かれる^*^

長かった・・・

やつとい、少し進みます・・・

取り合えず、爺ちゃんは無視して能力の解明でもするか・・・

「ねえ。おつねさん、悪魔の実ってどうやって調べれば良いの？」

おつむ「普通なら悪魔の実の図鑑から調べて、使って見るんだがミリーのは分からないからな~・・・

取り合えず 何か力や自分の感覚で前と違う事はないか?」

違つ事か
・
・
・
・

取り合えず田をつぶり 無 の状態にしてみた・・・

何だろ「ひ」の感じ・・・

何で鋼の映像が頭に流れてくるんだ？？

・・・・・ん？・・・・・・

ゼウス？

ゼウス「やつと 心の声に気づいたか！」

ゼウス・・・あんたの行為でとんでもない世界に来たじゃない！

ゼウス「まあ！ 良いじゃないか 楽しいだろ」

楽しいけど・・・私の平凡が・・・・（泣）

ゼウス「そんな事より（そんな事つてー） お前の悪魔の実のこと
だけど。」

悪魔の実つて！！ アレもあんたの所為？！

ゼウス「おう うれしいだろ？ 最強だぜ！ 何つて言つたつて
神の力の実にしたからな 」

・・・・・・・・・神？・・・・・・・ゴット？

ゼウス「そう。神」

つて 何だ？ 何でそんな力になつてるの？ しかも、神の力つて
何？？

11話（後書き）

何か、短くなってしまった・・・
限が良いからまあ、いいつか

12話 神の力・・・もう、何かチートだね・・・平凡が・・・

神の力って何??

ゼウス「神の力とは、創造主の力だな」

創造主って・・・ドンだけチートなの?

しかもどうやって使うのさ、分けわかんないし。

ゼウス「使い方か?? 本来なら考えたりイメージすればいいんだが、前の世界にあつた鋼の何とかとか言つたヤツみたいに使えば良いと思つぞ。 あんな風に使えばそんなに怪しまれないし。」

鋼か・・・そういうえば、さつきの映像つて・・・鋼だつたな。

ゼウス「あつ! それ俺がやつた」

ヤツパリ お前か!

ゼウス「それと、お前の事気に入つたから、お前死んだら神になる事になつてゐるからな」

なつ！ 何だと~~~~~！

ゼウス「おう そんなに喜んでくれたか~~ 他にも情報があるぞ」

喜んでないし！ それに他にもなんかしたのかよ！

ゼウス「したぞ！ ドンだけ悪魔の実を食べても死がないし、泳げるし あつ！ あとは、もつ一つの実は、治癒治癒の実とでも呼ぶか 即死でない限り怪我では死なないぞ あと、お前の血を飲ませれば他の者も治るぞ」

・・・・もう何も言わない・・・・（泣）

ゼウス「そつか、じゃあまた来るわ」

もう来なくて良こよ・・・・

そう言って徐々に声が聞こえにくくなつていった・・・

ゼウス「そうそう言い忘れてた・・・悪魔の実・・天敵の・・・
・・は・・・・・・・・・・・

だい・・・・・しどいたからな・・・・・・・

? ? ? ? 何を言つたんだ ・ ・ ・ ? ? ? ? ? ?

13話 何だ！この力！

ゼウスとの念の会話を終わってから取り合えず力を使ってみる事にしたけど……

どうせつて、怪しまれないようにするか。

取り合えず……

「なんか前と違う感じがあるのでなんか分かったから、使ってみるね。」

おつる「でわ、我々は離れて見ているからな。 分からない事があるたら言いなさい。」

「はへへい。」

取り合えず 錬金術みたいにしないと本当のことがばれるんじゃないかなあ。

確か……鋼つて、手を合わせて練成するんだよね。

でも、アレだと物がないと可笑しいし、魔法みたいに使う事が出来ないからな～。

(圖) 亂世
亂世

おー！

手を合わせて

パン
バチバチ

練成完了

――おつる視点――

ミリーの能力がどんな物か見に来てみたが・・・

凄い事になつていた。やはりか としか言いようがない・・・

ガープが脱走してきてるは、他の訓練施設で訓練していたはずの者達がみんなココに集まつていた
しかも センゴクや大将達が隠れて見てている始末じや。

まあ・・・分からんでもないがな。

しかし、ガープが説教されてるが・・・ザマー!!口だな!

ミリーの説教が終わり、力について何か精神統一のような事を始め
てから・・・

5分

なんか分かってたらしく、私たちは離れて見てはいる事にした。

・・・が ミリーが手をたたいたかと思うと稻妻に似た現象が起
り、金の塊が現れた。

・・・・・なんだ?この力は・・・・・

14話 金??

取り合えず練成してみたけど・・・って練成じゃなくて創造の力なんだけどさ・・

つてか・・・金作ってみたけど・・・他のにした方が良かつたのかな・・・

おつる「//ローその力はなんだ!」

? ? ? ?

「何か良くわかんないんだけど 周りにある物を集めてみたの。」

おつる「それで金が出来たのか?」

「そりみたい」

おつる「・・・取り合えず //ローその能力を人に見せてはいけないよ。」

「・・?なんで?」

おつる「どの力を使えば色々な物が作る事が出来るといつ事は、それを使えばどんな者も金持ちになれ

化学反応を起しそれを爆発させたりもできるお前を捕らえて悪用すれば何でも出来る。 悪の者がお前の力を

知れば利用せんとする者が現れるだろ?からな・・・」

言われてみればこの方法もかなりチートだよね・・・

まあ、創造の力とはばれてないからいっか

「うん。 分かった」

おつる「それと、この力を制御できるようにならなさい。」

「はい。」

おつる「もつ一つの力は分かっているのか?」

「うん。何か傷を治したりする力みたい。」

おつる「わつか……」

——おつる視点——

この子の持った力は、かなり厄介だな。

鍊金してしまうとは……

一様釘を差して置いたが……

「もう一つの力は分かっているのか?」

ミコー「うん。何か傷を治す力みたい。」

呆氣ラカンとした言い方にため息が出てしまった……

まだ、3歳だ仕方がないが・・・

「その力もかなり珍しい力だから 気を付けて使うんだよ。」

ミニー 「うん。分かった。」

主人公

モンキー・D・ミニー

3歳女

ルフィーの1才下の妹

ゼウスにより転生・・・平凡をこよなく愛する少女

ゼウスのお節介により、

容姿

黒髪のパツチリ一重目

小顔

口は可愛らしくキスしたくなる様な、ふるふるなお口

絶世の美少女

それは、エースとルフィーがパソコンになるほど・・・

悪魔の実の力

神の実（神神の実）

他の人には、鍊金の実と言つ

治癒治癒の実

即死、死にいたる病気以外なら治す事ができる。

15話 番外 ガーブ vs ハース ルフィ

＝＝＝ハースの憂鬱＝＝＝

爺から珍しく手紙が届いた・・・

そう、届いたのは良いとしてこの写真は何だ。

ルフィ「なあ・・・。ハースの写真・・・」

そう、問題の写真はハースが男どもに囲まれて立っている写真だ！

「ルフィ、ハリーをこのままにしていて良いと思つか？」

ルフィ「駄目に決まつているだろ！」

ルフィも俺と同じ気持ちか。

「取り合えず、爺に連絡取るぞー！」

ルフィ 「おう。」

フルフルっ・・・・・フルフルっ・・・・・ガッチャ

ガープ 「ハイ。もしもしシワシジじゃが！」

・・・爺・・・普通の人ならワシジやあ、誰だかわかんないぞ。

「俺、エースだけど。」

ガープ 「おう(喜)エースか」 ミリーの『真が届いてお礼の電
話か？ 爺ちゃんは うれ「なわけ
ないだろ」・・・はあ？」

「爺！ ミリーは何で野郎どもに囮まれてるんだ？ 回答に選つ
ちゃあ・・・分かつてるよな？」

ガープ 「まつー、さて、何の事じや？」

「爺の送った写真の中にミリーが野郎に囲まれてるにがあるんだよ
……」

ガーブ「アレは、ミリーが修行しているところに教えてやるうと
だな・・・」

「教えてやるのに鼻の下のばしたり ハロイ田で見たりするのか?」

「どう見てもミリーを変な田で見てるだろー。 そんな事も爺わかん
ないのかよーー。」

ガーブ「いや~ まだミリーは3歳だし「三歳とか関係ないだろー。」

・・・

ガーブ v SHIRES

このやり取りが5時間続き

その後、ルフィに代わり

ルフィ 「爺ちゃん！ いい加減のしろよー。」

ガーブ 「爺ちゃんはなあ、お前達が可愛いんじや・・・頼むから嫌いにならんでくれ〜〜（泣）」

ルフィ 「嫌いとかの問題じゃないだろ？ それと//コーを俺たちのところに返せーー！」

この攻防戦が2時間続いた。

海軍本部では、メソメソと体育坐りをしのの字を書くガーブの姿が在ったのだった。

エース「くそつ 爺めーー。」

早く強くなないと・・・

エース「ルフィイ、早く強くなつて!!」
「コーウェーを迎えに行くぞ!
と、変な虫がつく!」
でない

ルフィ「そりだな!早く強くなるぞ~~~!」

こんな感じで原作より強くなる2人だった。

＝＝＝＝作者から＝＝＝＝

ただいまから、色々訂正したりします。

修正できるかな・・・（泣）・・・

私、理数系は得意だけど文系苦手なんだよな～。

妄想大好きで気の向くまま、思いつくまま書いたんだけど・・・表現が難しい・・・。

漢字読めるけど書くの嫌い！

こんな感じなので漢字間違いとかここでの少し訂正したりします。

よろしくお願ひします。

りょうだした。

1-6話 そりやひ良じてさじまなこの？・・・まだ早い・・・やりますか（泣）

アレから2年たつた。

もう5歳になつた。

そろそろ 帰りたい ハーストルフィに会いたい（泣）

爺と言ひに行ひー。

もう 爺ひやんじやなくて 爺で良一や。

5分後

爺の部屋に着いた。

ノンノン

ガープ「はーい」

「爺はいるわー！」

ガープ「なつー リリー 爺とは何じやー 爺ちゃんとはこなでー。
爺ちゃんとー」

「もへ、爺で十分！ いい加減 お兄ちゃん達に会わせてーー！」

ガープ「ならん！！」

「何で！」

ガープ「何でもじやーー！」

・・・・この爺 何か企んでる・・・

「爺・・・もしかして、私を利用してお兄ちゃん達を 強くし
軍に！ なうんて 海

考えてないでしうね！」

ガープ「・・・・ ダラダラ（冷汗）

ヤツパリ！

「図星なんだ。・・・ふ〜ん。」

ガーブ「//シーア//コー・・・爺ちゃんはだな「いい加減にして」
はい。」

もう如何してくれよ!。

1-6話

それから奥へとじやなーの?・・・まだ早い・・やつですか(泣)

短くてすこません・・・今から用事終わらせて また続きを書きます。

「 うん もういいじゃん？」

「 爺と一時間 おはなし したよ。」

「 爺から爺ちゃんに戻してあげるから、かえして！」

ガープ「ホントか?...」

「うん。」

ガープ「じゃあ一・二日間のみじやぞー。」

「 うん、短いけど...これ以上は無理か。」

「うん 爺ちゃんありがと!」

ガーブ「良いんじや。//リーフ爺ちゃんと言つてくれるだけで
ワシは嬉しい（泣）」

そんなに、爺がいやだったの？

「爺ちゃんいつ行くの？」

ガーブ「そりじゃな～・・・・3日後じやな。」

「わかった。」

18話 予想外の出来事・・・

3日間 ルフィーとエースに会う為に準備が大変だった。

何が大変かって？

海兵「あの～・・・ミリーちゃん 実家に一時帰宅すると聞いたから。これ、みんなで食べて。」

「あつ。ありがとうございます、」

それから3時間後

それから次々にみんなが持つて来て、部屋が・・・部屋が・・・（泣）

おつる「おーこー ハニー入るわー・・・・なつなんだ これは!」
「！」

「みんなが家に少し帰るって聞いて持つてきたの・・・ええへん（泣）」

おつる「限度とハリモノがあるだらわー・・・」

どんな常態化といつと。

ベット以外居る場所がなく 足の踏み場がないので、部屋からも出
れず・・

おつるさんが来るまで4時間この状態が続いただ。（泣）

おつる「今日は、私の部屋で寝なさい。」

「おつるねーん(泣)動けないの~~~~~!」

おつる「つなー、どうあえず待つていなさい。」

アレからおつるさんが部下を連れて来てくれて、助け出してくれて。

その後、私に色々持ってきたくれた人たちとはおつるさんにより説教とお仕置きが待っていた。

その中に大将である クサン サカズキ ボルサリーノ の姿が遇
つたらしい・・・

アレからおつねんの部屋で。

おつる「そういえば、兄達に帰る事伝えたのか?」

「あ！ するの忘れてた・・・」

おつる「お前な～・・・いや、さすがガ・ブの孫と言つたとか。」

なつ！ 爺ちゃんに似てるだつてーー！

いやだ！！

全然似てないよね

「取り合えず電話してきます。」

おつゆ「やうしなれ」。

ブルツブル・・・・・ブルブル・・・・・ブルブル・・・・ガチャ

エース「なんだーー！ 爺！ ミローをいい加減帰しやがれ！」

・・・・エース兄・・・爺ちゃんに帰せて説得してくれてたんだ。

それにしても、爺のひがみをしなおさなければ必要だね

「もしもし、エース兄。ミリーだけど。」

エース「なつ！ ホントにミリーか？」

「うん。今度そっけなく一時帰宅する事になつたから。」

エース「ほんとか！」

「うん。」

エース「やつた～～～～～～～あ。ルフイ～～～～～ミリーが
かえつてくるだ～。」

ルフイ「ホントか。エース」

エース「今ミリーから電話で・・・」

兄ちゃん私ほつたらかし・・・

「もしもし？」

エース「おっおう。すまん取り合はず分かつた。それでいつのなんだ？」

「3日後」「を出るから、2週間～3週間後ぐらいだと想ひ。」

エース「分かつた。」

「じゃあ。また帰つてから色々話すね」

エース「おっ。楽しみに待つてるだ。」

エース視点

ミコー「ただいま～」

ようやく帰つてきたか。

「お帰り。」

と言ひ玄関に行くと・・・

絶世の美女が立っていた。

「あの～じゅら様で・・・」

「ミコー 「お兄ちゃん? 私ミリーだけど……忘れちゃったの?」

・・・・・

「ミコーは、まだ5歳のはずだが……」

「どう見ても15~18歳ぐらいに見える。」

「ミコー 「ミコーね。エース兄が大好きで、結婚したいから海軍の偉い人(研究家)達に
大きくなる薬をね~作って貰つたの~」

「なつ・・・・・!」 動搖する俺。

「どうする? 俺!~!」

「ミコーとは、本当は血は繋がっていないし・・・・・・

//コーの方を見てみる。

綺麗だ・・・可愛いし。

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

妄想中

・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・

考え中

よしー!

「//コー本当に悪いのか?」

//コー「うざ。 //コーねー! ハース兄が良いの。」

「コーの上田さかにに撃沈

「……」

ミニー「ハース兄……」

見詰合「……そして唇……」

・・・・・ドカ――――――――――――

ルフィ「エース、起きる~~~~~！」

なんだ？？？ んん？ ルフイ。

「…………夢か。」

アレが現実なら。

ルフイ 「?????????」

「なんでもない。」

ルフイ 「やうか。じゃあ!!ローが帰つてくるまでこ、強くなるための修行するべへへ。」

ルフイ 「…何でそんなに元気なんだ。」

あの夢の続きが見たい・・・（泣）

21話 あれから。（前書き）

一一一

21話 あれから。

アレから色々あつた。

みんなが持つてきたりお土産の数々を整理して、出発の朝。

? ? ? ? ?

みんなの田んぐマ。

おつる「//コー・・・見てやるな。」

なんとなく分かりました。

おつるさんの説教がビリや、未だ続いていぬりしべ 昨日から今
朝にかけて説教と

言ひながらの拷問が遭つたらしい。

「おつるさん。 もうここから許してあげて。。。」

海兵達だけじゃなく、大将3人も説教されてるらしい。

おつる「そういうが、奴らは懲りず未だに贈り物を持つていい」と
していたんだぞ！」

・・・それは。迷惑な・・・

「おつるさん。 好きなだけやつちやつて良一です。」

おつる「分かった。」――ヤリ

こうして ミリーが旅立つその日まで
お説教と言ひぬの拷問がつ
づいた。

21話 あれから。（後書き）

そろそろ旅立ちます。

幼き頃のサンジを出そつか悩んでます。

それとも、ゾロ？

22話 旅立ち

やつと帰る日になつた。

見送りにみんな来てくれて・・・・・つて多くない?

見渡すかぎり 人 人 人 の嵐

私アイドルじゃないんだけどな〜。

自分の姿について 全く 理解していないミリーなのであつた。

ガープ「おっ! 来たか。ミリー」

出港準備を行なつて いる爺ちゃん・・・あれ? ?

爺ちゃん仕事だつたはずじゃあ・・・???

〃「爺ちゃん・・・お仕事わ?」

ガープ「んん? 終わったぞ!」

仕事がおわった? あの万年サボりまくの爺ちゃんが?

・・・ありえない。

〃「爺ちゃん・・・本当に終わったの? また、部下に押し付
けてきたんじゃないの?」

ガープ「押し付けておらんだ。 チヤンとして来たぞ。」

血盆に満ち溢れた目

本当なのか？

おシリ「ミコー。 今回はホントじやぞー。」

何とーーー！

雨！・・・いやー嵐が絶対くるー

おつる「!!コー・・・お前の気持ちは分かるぞ！ 何せ、ガープが

ガープが

海軍に入つて初めての

事じや！ お前が疑うのも 信じられないのも ものすゞ――

分かる 分かるがー！ ホントの事じや。」

ミリー「爺ちゃん頑張つたんだね！ 偉いよー！」（泣）

ガープ「爺ちゃん頑張つたぞ！」何せミリーとお出かけする為だか
らな！

こんな事なんてことないわ！」ガハハハハハハハア

「——『爺ちゃん威張る事じゃないよ……本来なら並たう前の事だよ。』」

「アーニー、ミス・ヒルバーグさん。」

いつして 爺ちゃんも一緒に行く事になった。

大丈夫か?

23話 ガープ視点

ワシは、娘がほしかつた。

しかし、生まれてきたのは・・・男。

我が子だから可^レいは可^レいのだが・・・

年を重ねるにつれ、可^レくない！ 取り合はず可^レくないのだ！

ワシの言つ事は聞かず、革命なぞさせやがつた！

ワシは海軍に入れたかったんだ！！

しかし、あの馬鹿が生まれて初めてよかつたと思つた。

それは、孫だ！

ワシの孫は世界一可^レい、素直じや！

あの鳴鹿のナ　ヒガシナムラノジヤー。

あのナヒナムラニ幸せになつてもうらわねが・・・

やまつ、海軍にいれて・・・こさ。

海軍にいれるのでは、だめだ・・・

そうだ！海軍の強い者に嫁こ出ナウ。

24話 番外 ルフティー視点（前書き）

エースの妄想ネタの後に、書くつもりが忘れてました(>・<)

24話 番外 ルフィー視点

ミリーが爺ちゃんに連れて行かれてから、エースがおかしい。

エース「おい！ルフィー。修行するぞ！」

張り切り様が半端ない。

ミニーの為に強くなるのは、俺も賛成だけどな、何せ……

俺の可愛い
いもうと
だからな
ー！ 守らないと
ー！

永遠

・・・オットー ミニーの話じゃなくて 今日はエースだな。

最近エースが寝起きが悪い

今までだったら、俺よつ早く起きてきたはず・・・

とある日

あれ? もうこんな時間だ。

「いつもなり、Hースが修行～～～って言つてへるの・・・?」

最近おかしいな。

取り合えず、起こしに行へか。

Hース「~~~~//コー・・・・俺も・・・・・」
「良いのか?」

どんな夢見てるんだ?

エース「・・・おれも・・・でもな〜〜・・・好きだ・・・」

意味がわからない。取り合えず起こすか。

と言つて起こしたら、睨まれて・・・・俺がわるいのか？

この後の修行は・・・辛かつた。

25話 海上レストラン

海軍本部を出てから、2日たったある日の出来事。

「…………」

やつ、爺ちゃんの思にけないよう海上レストランに来てしました。

「兄ちゃんが、航海するまで来るつもりはなかつたんだけどなー。」

やつとも知らず、相変わらずの爺ちゃんは、

ガーフ「//コー早くおこで～～～。爺ちゃんとデートだぞ～～。」

孫とデートって……

私ならいやだ……あの能天気な爺ちゃんとデートなんて……
恐ろしい。

何が起こるか分かったものではない。

この人とデートできる人を見てみたい……いないだろ。

「爺ちゃん、テークではあります。ただの家族の外食ですー。」

ガーブ「わあははは（笑）照れる出ないぞ～～。」

「照れてないです。ものすごくいやです。変な妄想しないでください。これ以上変な妄想

するなりお鶴さん」、言こますよ。」（無表情）

（ガーブの中）
ミリーの無表情は怖い・・・ 最近 お鶴のキレた時の状態に似て
きた・・・
ヤバイの～このままいくと本気でキレる。

ガーブ「・・・（冷や汗）じつ・冗談じやーーー。」

「分かればいいんです。取り合えず食事にしてましょー。」

なんとか事なきを終えてか・・・

26話 サンジ観点

サンジ「くそ～！…あのくそ爺ー！」

サンジ「大体あいつらの腕が悪いんだ！」

そう言つて、イライラしてゐるサンジ

??.??.「//コーーー。爺ちゃんとドーナーだね～。」

ミニー「変な事言わないでください。・・・大体・・・・・・」

サンジ「何の声だ？」

ものずくへ可愛い声が聞こえてきて、気になつたサンジは、窓から乗っ出し見て見ぬことにした。

そこには・・・

サンジ「・・・かつ・・・可愛い。／＼／＼／＼」

そこには、黒髪のロングストレートヘアー 田はパツチリー重 口
と鼻は小さすわわ

バランスのよい形になつてゐる。

サンジは、初恋といつモノをしたのであつた。

サンジ「何なんだ？」の気持ち・・・」

27話 れかり・・・ぱくある？

こんな展開になるとは思わなかつた。

だつてやうでしょ？

あの世界の彼は・・・女大好き の タラシ だつたはずだから。

こんな・・・こんな」とつて・・・

！ ！ ！ イレギュラー だつて ！ ！ ！

あれは、爺ちゃんといふ飯食べている時だつた・・・

ガーフ 「 ミニー おこしこい？」

ミニー 「 おこしこよ 幸せ。」

ガーフ 「 もうか、もうか。おこしこいか 爺ちゃんもおこしこくで幸せだぞ。」

爺ちゃん、「 味覚つてあつたの？」

ルフィー兄ちゃんと一緒にでも食べてしまひから、無いかと思つてたわ。

パン！！

イキナリドアが開き ハース兄ちゃんと同じぐらいの男の子が入ってきた。

やつ、その時気がつくべきだったのだ まだ、会うべきではないと。
従業員「いらっしゃい！ サンジ！ お客様がいるんだ静かに入つて来い！」

サンジ「・・・」

従業員「おい！ サンジ聞いてるか！？」

そつとひつ従業員を他所に、サンジは少女を探した。
そう、ミニーを・・・

サンジ「・・・居た・・・」

従業員「居た？ オッ・・・オイ！ サンジー！」

セツヒツと、サンジせ//コー田掛けて歩を出した。
流石に、鈍い//コーでもこの状況には気づいた。

あの子、私目掛けて歩いてきてない?!

あいつこいつ聞け//コーのところに着いて//コーをジッと見てころ。
流石の//コーもこの沈黙とガングには耐えられず。

//コー「あの～～～～～私に何か御用ですか?」と聞いてみた。

サンジ「・・・・・」

//コー「あの～～～～「ボソ」・・え??

サンジ「かわいい・・・・・」

//コー「まあ??.」

サンジ「あのー イキナリですが! す・・・す・・・」

二十一

サンジ「好きです！」結婚を前提にお付き合いしてください」…」

三一七
卷之三

サンジ「お願ひしますーー！」

そう言われても……どうせや。

そうだ!! 桑爺ちゃんに助けを

ガープ「ZZZZZ」

くそ爺！の役立たず！

こんな時に、飯食いながら寝るんじゃね？！

サンジ「イキナリでビックリしたのは分かります。でも・・・本気なんです！お友達からでもいいです！お願いします！」

友達ならいいつか。

ミコー「じゃあ、お友達なう。」

サンジ「ホントですか？」

ミコー「はい。」

サンジ「やつた――――――――――――！」

ミコー「あの、自己紹介がまだでしたね。私はモンキー・D・ミコーといいます。

あなたは？

サンジ「あつ！俺、サンジっていいます。」

ミコー「へえ？？？」

サツ・・・・・サンジ・・・・・サンジって・・・
あのサンジ？？？
ビ・・・・ビ・・・・！――！

まだ、会つたらいけない人なのに――――――――――！

と函む//コードであった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n4089m/>

ワンピースに・・・転生してしまった

2011年7月26日08時39分発行